

「ミャンマー石油精製分野への環境安全・運営・品質管理に関する支援調査事業」

本事業は、産油国石油精製技術等対策事業補助金の交付を受けて実施する産油国等石油関連産業基盤整備事業として、JX 日鉱日石エネルギー㈱及び JX 日鉱日石リサーチ㈱の参加により実施しているものです。

1. ミャンマーについて

ミャンマー連邦共和国は国土面積 68 万 km²（日本の約 1.8 倍）、人口 5,100 万人を有する農業を主産業とした多民族国家です。同国はインドシナ半島西部に位置し、南北に延びる長い国土が特徴で、北東に中華人民共和国、東にラオス、南東にタイ、西にバングラデシュ、北西にインドと多くの国と国境を接しています。首都はかつて南部のヤンゴン（旧名：ラングーン）にありましたが、2006 年に中部のネピドーに移転されました。

2012 年の一人あたりの GDP は 868 ドルで日本の約 2% ですが、経済成長率は 6% で今後の成長が期待されています。

2. 事業の経過

JCCP ではこれまでに、ミャンマーとの間で基盤整備・共同研究事業を行った実績はなく、本件が初めての事業となります。カウンターパートは国営石油会社の Myanmar Petrochemical Enterprise (MPE) で、同社は中部の 2 か所（タンバヤカン、チョーク）、南部の 1 か所（ヤンゴン）の計 3 か所で製油所を運転しており、精製能力は合計 51,000 バレル / 日です。設備は老朽化しており、新しい製油所の建設が求められていますが、同時に現状の設備を効率的に運転するための技術支援も必要とされています。また、石油製品の規格も今後策定されることが求められており、品質管理も今後の検討テーマとなっています。

本支援調査事業では共同事業実施に向けて、これまでに現地で 2 回会議を開催し、ミャンマー及び MPE が現在直面している課題とそれらを解決するための対策について、MPE と参加会社との間で意見交換を行いました。

5 月に行われた 1 回目の会議では、参加会社から今後の検討テーマとして、①品質管理、②環境管理、③安全管理、④石油エネルギー供給の将来計画策定、の 4 つについて説明し、MPE とこれらの必要性について議論しました。会議の中で MPE から、ミャンマー国内では以前より石油製品を最終消費者まで品質を維持した状態で届けることを一つの目標としており、日本の取組みを是非参考にしたいという要望が出され、後日参加会社に対して、石油製品の品質管理を来年以降の事業のメインテーマとして選択したいとの回答がありました。

2 回目の会議では、品質管理の中で具体的にどのようなこ

とが MPE として必要とされているかが議論されました。その結果、下記の項目について主として今後進めたいので、今後の事業で支援をお願いしたいとの要請がありました。

- (1) 品質管理システム、
国際的な品質管理システム、日本で採用されている品質管理システムおよび関連する取組み
- (2) 品質管理方針等
日本の石油会社の本社・製油所の品質管理方針、品質管理体制および品質管理基準の具体的な内容
- (3) 品質管理部門の役割
製油所の品質管理部門の組織および品質管理測定ポイント

上記以外にも関連するテーマとして、石油製品の貯蔵の基準、ガソリンのオクタン価向上策等、細かな項目についての支援要請を受けており、MPE が今回の事業について幅広く日本側に期待を寄せていることが窺われます。

また、MPE は同国のエネルギー省 (Ministry of Energy: MOE) との関係が深いため、本事業での技術支援による政府機関との関係強化も期待されます。

3. 今後の取組み

これまでの MPE との議論により、品質管理が喫緊の課題であることが明らかになりましたが、参加会社から提示された 4 項目は、いずれもミャンマーにおいて取組むべきテーマと考えられ、今後もカウンターパートと継続して必要性について議論する予定です。本事業の当初の目的を達成することにより、ミャンマー、日本両国の今後の友好関係の増進に寄与したいと考えております。

（技術協力部 野中 修）



MPE との打合せ